

研究成果報告書

2021年 6月 18日

1. 所属・職・氏名 等

文学部 英文学科

名誉教授・福島佐江子

2. 研究課題（テーマ）名

依頼発話行為の対照語用論・語用論（ポライトネス）

3. 研究期間

2019年8月～2021年3月

4. 利用した研究費の種類及び金額

重点領域研究費交付金（国際共同研究に関する研究領域）

2019年度：139,500円

2020年度：437,000円

5. 研究の概要

2019年度はリサーチの焦点を定め、どのようなデータをどのように収集するかを決定した。中国と日本における依頼発話行為を分析するにあたり、二国の間でどのようにしたら同じデータを収集できるかが本研究の一つの鍵となる。ソーシャルメディアにおける依頼行為を収集するにあたり、中国ではWeChat、日本ではLINEにおけるデータが比較可能であるという結論に達し、各々のデータを収集した。中国のデータ収集に関しては共同研究者であるRen博士が担当し、日本のデータ収集に関して私（福島）が担当した。次に収集したデータをどのように分析するかを検討した。主にBlum-Kulka、House and Kasper(1989)の理論を基にし、今回のデータにあった形で微調整を加え、分析の枠組みを作った。また、本研究に関わる先行研究もまとめた。

2020年度はデータ分析を行い、その結果をまとめ、ディスカッションを重ね、論文執筆を行うと共に学会発表の準備をした（学会発表に関しては6を参照）。

6. 研究成果等

研究成果は以下の論文にまとめた。この論文は今秋オランダのBrill社から出版されている国際学術雑誌 *Contrastive Pragmatics* に掲載予定である。オンラインのOpen Accessでも閲覧可能である。

Ren, Wei and Saeko Fukushima. Comparison between Chinese and Japanese Social Media Requests. *Contrastive Pragmatics* 2(2): 200-226. DOI:10.1163/26660393-BJA10017.

当初の計画では国際学会における発表も予定していたが、新型コロナウイルスの影響で開催されなかった。まず2020年6月に予定されていた学会(the 9th International Conference on Intercultural Pragmatics and Communication(INPRA2020))における発表は下記のとおり受理され、発表を予定していたが、2020年12月に延期になった。新型コロナウイルスの状況が好転しなかったためさらに2021年12月に延期になってしまい(つい最近、学会はさらに2022年に延期するという知らせがあった)、2020年度中に発表することができなかった。大変残念である。

Dear Saeko Fukushima & Wei Ren,

It is our pleasure to be able to inform you that your paper (*Social media requests: A comparative study between Chinese and Japanese*) has been accepted for presentation at the **9th International Conference on Intercultural Pragmatics and Communication (INPRA2020)**, held at The University of Queensland (June 12-14, 2020).

We are looking forward to welcoming you at UQ,

Dr Valeria Sinkeviciute

On behalf of the INPRA2020 Organising Committee:

Professor Michael Haugh

Dr Valeria Sinkeviciute

Dr Wei-Lin Melody Chang

7. 研究の実績(論文・発表等)

Ren, Wei and Saeko Fukushima. Comparison between Chinese and Japanese Social Media Requests. *Contrastive Pragmatics* 2(2): 200-226. DOI:10.1163/26660393-BJA10017.